

韓国環境部プレスリリース 2019年11月1日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

## 京畿道坡州市新西面番谷里地域のイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出（野生いのしし 19 例目）

<http://me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1079205&menuId=286>

### 【本文】

環境部所属国立環境科学院（院長：ジャンユンソク）は京畿道漣川郡新西面番谷里 849 番地で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと 11 月 1 日発表した。

10 月 31 日午後 12 時頃、住民が畑の周辺のイノシシへい死体を発見し、漣川郡に申告した。漣川郡は初動措置と試料採取後、野生のイノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針に基づいて死体を埋却して試料を国立環境科学院に移送した。

※試料採取及びへい死体を埋却した後、作業者消毒と周辺防疫作業の実施

国立環境科学院は 11 月 1 日午後 8 時 30 分頃、アフリカ豚コレラウイルスを確定し、その結果を関係機関に通報した。現在までに漣川地域だけで 8 件の野生イノシシのアフリカ豚コレラが確定し、全国的には 19 件に増えた。

チョン・ウォンファ国立環境科学院生物安全研究チーム長は、「今回の検出点は、民統線から約 1.4km 南、10 月 28 日、ウイルスが検出された瓦草里 から北に約 2.4km 離れており、設置されている 2 次フェンスで囲まれたポイントである」とし「この地域では、感染したへい死体がさらに出てくる可能性があり、へい死体の調査をさらに強化する」と述べた。

（以上）